

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200089		
法人名	有限会社フタバメイト		
事業所名	グループホームさくらぎ庵1階A		
所在地	愛知県大府市桜木町二丁目230番地		
自己評価作成日	令和5年2月5日	評価結果市町村受理日	令和5年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が経営しており緊急時に対応が迅速にできる為とても安心して生活が出来ています。施設周辺は田畑や花畑もある上、近隣は住宅地もあり散歩に出れば声を掛けてくださったり認知症に対してご理解を頂いています。小さい庭ですが花や野菜を育て調理して食べる楽しみも味わう事ができます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2394200089-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2394200089-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの特徴として、ホームの運営母体が医療機関であることで、母体の医療機関の医師及び看護師による医療面での柔軟な支援が行われている。利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が行われていることで、利用者や家族の安心感にもつながっている。利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、医療面での連携を深めながら、ホームでの看取りも行われている。日常の支援については、職員間で利用者に関する情報交換を行う時間を設けながら、利用者に関する情報や意向等を職員間で共有し、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげる取り組みが行われている。利用者の様々な状況に合わせた、食事、排泄、入浴等の支援につなげており、利用者のホームでの生活が継続できるような取り組みが行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年3月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念を理解し共有しており実践に繋げるよう努めている	基本理念でもある「愛・思いやり・承認の心」を職員の支援の基本に、職員の目に入りやすい場所に掲示が行われている。理念と合わせて職員の心得も掲示しており、理念の実践につなげる働きかけも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為地域との交流が難しかったがつながりを持った生活に繋げている	地域の方との交流が困難な状況が続いているが、近隣の方とのあいさつや野菜や果物をいただく等、日常的な交流については継続する取り組みが行われている。また、運営法人の関連事業所を通じた交流も行われている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、近隣にある関連事業所との交流も含め、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為地域貢献が難しかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行事やサービス内容に関しての報告や意見をもらっている	会議については、書面による実施が続いており、関係者に書面を通じてホームの運営状況の報告が行われている。例年は、地域の方の参加も得られており、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。	書面による会議の実施が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、会議の再開につながる取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	必要時には随時連絡し確認している	市担当部署や広域連合との情報交換等については、運営法人の関連事業所を通じても行われているが、ホームからも行われている。また、運営母体の医療機関でも地域医療等に関する協力も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は正しく理解することに努め拘束はしない見過ごさないと言う意識はしっかり持ち防止に努めている	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内を利用者が自由に移動することができるように職員間で連携した見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修も行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士がお互いに行き過ぎた行為に至らないよう声掛けを行い防止出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中には成年後見制度を利用している方がおり勉強する機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	職員は契約に携わる事はないがすべて管理者が行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の要望は個々にあった落ち着いた時間帯に日常会話の中から汲み取るようにしている	家族が利用料の精算等を通じてホームに訪問する機会があり、利用者との交流にもつながっている。家族からの要望等については、法人代表者とホーム管理者で対応する体制がとられている。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回のミーティングの際や申し送りなどに意見を聞いてもらう機会がある	毎月の職員会議や日常的な情報交換等を行いながら管理者が把握した職員からの意見等を法人代表者に報告し、業務改善等につなげている。また、管理者による職員との面談の機会もつくりながら、職員一人ひとりの把握も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	健康診断や資格手当など向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得の促しや業務の中での指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	個人的に同業者との交流があり情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の今までの生活の様子など訴えを傾聴し理解するよう努め安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族との話の中で訴え要望などを傾聴するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時必要なサービスを把握し今後の状態に変化があれば他のサービスも家族に提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事を確認し支援に繋げている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や電話があった時は本人の現状を話し安心してもらうよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で面会も予約制で時間も決められているが自宅への外出なども支援するよう努めている	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者が家族と外出する機会が得られていることで、馴染みの方との交流の継続にもつながっている。また、利用者の中には、定期的に家族と外出している方もあり、関係継続の機会にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の特徴を把握し席替えなどの配慮で楽しく過ごせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も外部で見かけた時など経過の話や困りごとなどの話を傾聴したり挨拶をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を確認できない場合もあるが家族とも検討しながら本人に合わせた支援に近づけるよう努めている	職員間で利用者を担当する取り組みも行い、職員間での情報交換も行いながら、利用者や家族の意向等の把握につなげている。また、職員間でカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を日常の支援に反映する取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴を確認しこれまでのサービス利用の経過を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの状態を注意深く観察し職員同士情報共有するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人家族と話し合いを設けプランを作成しプランに沿った支援が出来るよう努めている	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも1日1ページの記録用紙も活用しながら利用者の変化等をチェックし、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の申し送りや申し送りノート、介護記録などにより情報共有し見直しに活かすよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状況、状態についてはミーティングの際話し合いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で地域とかかわりを持つことが難しくなかなか支援できない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	歩行でも行ける場所にホームドクターの病院があり直ぐに相談適切な医療を受けられる	運営母体が近隣に開設している医療機関であることで、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援が行われており、状況等にも合わせた受診支援も行われている。また、法人代表者が看護師でもあることで、医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回看護師が来られ日頃かた何かあれば看護師に報告し指示を仰ぎ適切に繋げて行くよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とも密に連携がとれている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医の指示に従った介護を行い家族と話し合い方針を決めている	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、医療面での連携も含めながら、ホームでの看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねており、ホームや医療機関で対応可能な範囲の確認等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	常にかかりつけ医と連絡を取り早急な対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の水害火災等に備え避難訓練を実施しているが地域での防災訓練など参加を募る必要がある	年2回の避難訓練を実施しており、職員間で連携しながら夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。ホームが立地する場所の土地が低いこともあり、水害を想定した対応も行われている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	感染症問題が続いていることで近隣の方との交流が困難な状況であるが、近隣の方との協力関係の取り組みについても、ホームからの継続的な働きかけ等に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の気持ちを重視しプライバシーや人格を尊重した言葉かけを心がけている	ホームの基本理念や職員の心得等、職員による利用者への言葉遣いや対応等について、管理者からも職員への注意喚起等の取り組みが行われている。また、職員の接遇にもつながる研修の機会もつくられており、職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	訴えを傾聴し希望を聞き利用者の好みややりたい事を把握するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の状態に合わせて柔軟に対応し個々のペースを大切に楽しく暮らせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の着たい服を選んでもらったり自分で選べない方は職員が毎日清潔な服を着用してもらうよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け、テーブル拭きなどやって頂くよう支援している	食事については、外部業者も活用しながら提供が行われており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。外食が困難な状況でもあることで、仕出し弁当等を提供する等、利用者の楽しみにつなげる取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は栄養バランスを考えている。湯せんの食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア及び歯科往診を希望者のみだが行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を活用し排泄パターンを把握の上支援している	利用者の排泄記録を残し、日常的にも職員間で申し送り等を行いながら、利用者に合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、職員2名による支援も行われている。また、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	1日の水分量の把握及び必要に応じて下剤の内服を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個々の状態に応じて入浴の提供及び入浴の拒否がある場合は時間や日にちの調整を行う	利用者の状況等にも合わせながら、週2～3回の入浴ができるように支援が行われている。特殊浴槽が設置されていることで、利用者の身体状態に合わせた入浴支援も行われている。また、季節にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	パジャマや使い慣れた寝具等配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常用している薬に関しては職員が保管場所、服薬時間等共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	文字合わせ、パズル、新聞等利用者に適したことを勧めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	季節により外出等の機会を提供している。誕生日会等の外出も行っている	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの近隣を散歩したり、近隣の医療機関を受診する等、現状で可能な範囲で外出が行われている。感染症対策をお願いしながら家族との外出が行われており、個別の外出にもつながっている。	例年は、近隣にある関連事業所の行事に出かける取り組みが行われているが、感染症問題があり、長期にわたり中断している。今後の状況にも合わせながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	物盗られ妄想によりトラブルの原因に繋が る為事務所にて管理している。また外出時 等必要に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望により本人から電話で話が出 来るよう支援している。また携帯を持って いる利用者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂けるようフロア内に飾り物を 作成しうて展示している	ホーム内は広めの空間が確保されているこ とで、利用者が日中の生活の中で閉塞感 を感じないような生活環境がつけられている。 ホームの庭の整備を行いながら、季節に合 わせた花等を植えている。また、利用者の作 品等の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている。	フロア内で昔の歌や好きなテレビ番組を見 て頂けるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる。	本人の馴染の品や家具を置き居心地よく過 ごして頂ける工夫している	居室には、利用者や家族の意向等にも合わ せた様々な家具類の持ち込みが行われて いる方やシンプルな雰囲気のある居室の方も あり、一人ひとりに合わせた居室づくりが 行われている。また、家族の写真等を飾 っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立した 生活が送れるように工夫している。	安心して安全に過ごして頂けるよう配慮し 支援している		